



侵入種チュウゴクアミガサハゴロモに対する 各種殺虫剤の殺虫活性

日本農薬株式会社 ^あ ^く ^つ 阿久津 ^{じゅん} ^{いち} 純 一

はじめに

チュウゴクアミガサハゴロモ (*Pochazia shantungensis*) は中国原産のカメムシ目ハゴロモ科に属する昆虫である (CHOU and LU, 1977)。本科の昆虫は腹部から白い蠟物質を分泌し、それが羽衣に見えることからハゴロモと呼ばれる。本種の幼虫は白色の体色で他のハゴロモと同様に蠟物質を分泌している (図-1A)。また成虫 (図-1B) は鉄さび色で前翅に三角形から半円形の白斑を有するのが本種の形態的特徴となる。本種の幼虫・成虫はともに植物に寄生し吸汁を行う点でほかのハゴロモと同様の生態的特徴を有する。加えて本種は幼虫が集団で寄生し大量の甘露を排泄することで、すす病を発生させる可能性があり、また成虫は植物の枝に傷をつけて産卵を行うため、維管束が破壊され枝先が枯死したり、産卵された部位がもろくなり果実の重さによって枝が折れたりといった農業被害を引き起こす危険性がある昆虫として注目さ

れている。前述のように本種は中国原産であるが、近年韓国やトルコ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、オランダ、ブルガリアという旧北区の各国に侵入している (Jo et al., 2016; BOURGOIN et al., 2020; STROIŃSKI et al., 2022; HIZAL and GJONOV, 2023; ZHURAVLEVA et al., 2023; KOBAYASHI et al., 2024; GJONOV and SIMOV, 2025)。本邦でも 2015 年に大阪府に侵入が確認され、2024 年 4 月時点で 1 都 2 府 20 県に分布を拡大し (KOBAYASHI et al., 2024)、その後も分布は拡大している。このように農作物に寄生し被害を発生させる可能性を有すること、また分布が拡大していることから 2024~25 年にかけて神奈川県、埼玉県、福岡県、山梨県、東京都、群馬県、熊本県、富山県、千葉県、奈良県、大阪府から病害虫発生予察特殊報 (以下、特殊報) が発表されている (神奈川県農業技術センター, 2024; 埼玉県病害虫防除所, 2024; 福岡県病害虫防除所, 2024; 山梨県病害虫防除所, 2024; 東京都病害虫防除所, 2025; 群馬県農業技術センター, 2025; 熊本県病害虫防

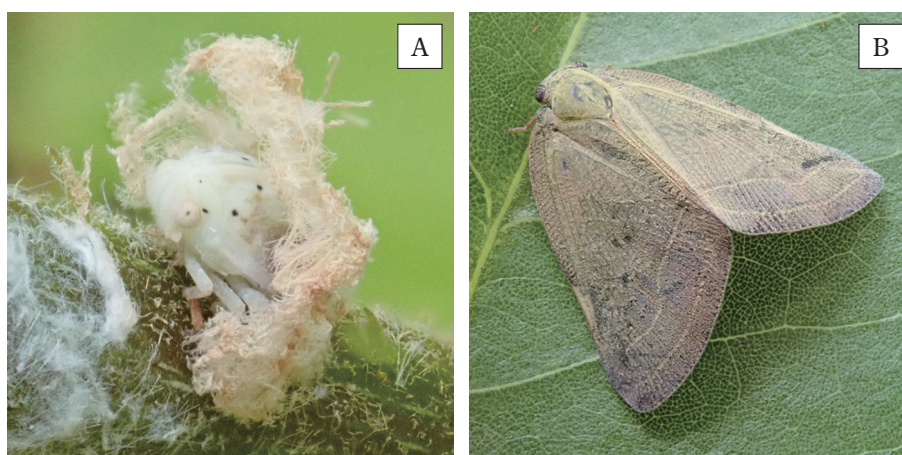


図-1 チュウゴクアミガサハゴロモ (*Pochazia shantungensis*)
A: 幼虫, B: 成虫 (児玉洋氏撮影)。

Insecticidal Activity of Various Insecticides against the Invasive Insect *Pochazia shantungensis*. By Junichi AKUTSU

(キーワード: チュウゴクアミガサハゴロモ, *Pochazia shantungensis*, 殺虫活性, ダイアジノン, アクリナトリン, アセタミプリド, スルホキサフロル, トルフェンピラド, ププロフェジン, 有機リン, ピレスロイド, ネオニコチノイド, スルホキシイミン, METI, IGR)